2021年3月4日

Enjin Pte. Ltd.

報道関係者各位

***プレスリリース***

**Enjin、ガス代を削減し複数のブロックチェーンに対応する**

**2つのスケーリングソリューションを発表**

**2021年3月4日発表（シンガポール）—** この度、ERC-1155トークン規格の共同開発企業となる

Enjin Pte. Ltd.（本社: シンガポール、CEO: Maxim Blagov、以下「Enjin」）は、ノンファンジブルトークン（NFT）向けのスケーリング技術である、「JumpNet」と「Efinity」を今年リリースする予定であることを発表いたします。JumpNetは2021年4月6日に、Efinityは2021年内にリリース予定です。

EfinityとEthereumという、複数のネットワークを用いたアプローチをとることで、Enjinはより強固な分散型エコシステムを構築します。またJumpNetを使用することにより、無料かつ即時のトランザクション実行が可能になります。

「JumpNetは、クリエイターが何千ものNFTを無料配布できるようにする、高速ブリッジネットワークです。Efinityがリリースされた後、JumpNet上のトークンはイーサリアムとEfinity間を自由に移動できます。 これらの技術により、開発者は的確に顧客にリーチし、ガス代によって引き起こされる予測不能な状況を心配せずに、最新のユーザー体験を提供できます。」

— Witek Radomski / Enjin CTO

JumpNetは、POA（Proof of Authority）方式のコンセンサスアルゴリズムを備えた、Ethereumのプライベート版であり、Ethereumをスケーリングさせ、無料でトランザクション実行することを可能にします。Ethereumのガス代の高騰によって、NFTの発行や、取引、配布が難しくなった時、スケーリングソリューションの威力が発揮されます。

またこの度、Efinity Networkの開発スコープを拡大させることで、同技術をEthereumだけでなく、他のブロックチェーンのFTおよびNFTにも対応した仕様にします。

Efinityは、あらゆるウォレット、マーケットプレイス、取引所が、スケーラブルな方法でトランザクションを管理することを可能にする、オープンプラットフォームとなります

Enjin Platformは現在、8,700人以上のクリエイターに採用されています。近い将来、複数のブロックチェーンに対応したトークンを発行できるようになります。他のブロックチェーンを利用するクリエイターは、トークンをEfinityへ移動させるとガス代を削減できるようになります。

MicrosoftやAtariなどの大手企業、および各業界のイノベーターは、すでにEnjin Platformを活用し、顧客に次世代のユーザー体験を提供しています。

2021年4月6日にリリース予定のEnjinのJumpNetにより、下記のアクションにおいて、ガス代や取引手数料無しでご利用いただけるようになります。

* Enjin Walletを介してEnjin Coin（ENJ）およびERC-1155トークンを送受信
* Enjin PlatformでERC-1155トークンを発行
* Enjin MarketplaceでERC-1155トークンを取引
* QRコードを介してENJおよびERC-1155トークンを配布
* Enjinに統合されたアプリやゲームからERC-1155トークンを自動配布

JumpNetの詳細については、<https://ja.enjin.io/software/jumpnet> をご覧ください。

以上

**Enjinについて**

Enjinは、誰もが簡単にブロックチェーンの開発、取引、収益化、インセンティブ配布、マーケティングを行うことができるエコシステムを開発しています。Enjin Platformは、次世代のデジタル経済を支える為、独自のデジタルアセットと市場の創出を支援します。 Enjinエコシステムは、才能ある開発者や先進的な企業によって制作された、先駆的なブロックチェーンゲーム、アプリケーション、プロジェクトの多くを支えています。 詳細については、[https://enjin.io](https://enjin.io/)をご覧ください。

**本件に関するEnjinお問い合わせ先：** 平手（kojiro@enjin.io）、澤嶋（maho@enjin.io）